

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471200040
法人名	有限会社 まごの手サービス
事業所名	グループホームまごの手
訪問調査日	平成19年10月19日
評価確定日	平成20年1月10日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4471200040
法人名	有限会社 まごの手サービス
事業所名	グループホームまごの手
所在地	豊後大野市朝地町下野442番地2 (電話)0974-72-0505

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.8 歳	最低	54 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あさじ町クリニック 親和会衛藤病院 えとう内科病院 老人保健施設親和園 老人保健施設やすらぎ苑 α 歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 国道57号線沿い、朝地町の道の駅の対面にあり、商店や住宅地の中で地域との交流を図り、地元根付いた生活を築いている。
2. かゆいところに手が届く「まごの手」のような優しさと安らぎを感じるケアの提供を心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義と目的を全職員に伝え、取り組みの事実を各委員会で検討し、スタッフ会議を持ち、全職員で自己評価を行ったが、具体的な改善に取り組むまでには至っていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの取り組み内容の報告や地域の理解と支援を得る話し合いをしている。結果は委員と家族に報告し、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や家族会の時、何でも言えるような雰囲気作りを心がけている。意見がある時は、朝・夕の申し送りやスタッフ会議で話し合いをして、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の自治会に入っており、祭りや幼稚園の運動会等の行事に、利用者と一緒に参加している。民生児童委員の訪問や老人会の慰問、獅子舞の訪問など、地域と積極的に交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「地域の中で人間として普通に暮していただく」ことを理念として、地域と密着した支援をポイントに置いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼時やミーティングで話し合い、日常生活の中でケアに活かせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の祭りや行事などに参加している。中学生の体験学習受け入れや子ども神輿がホームに来て、子どもと触れ合うことを大切にしている。また、近所の方から野菜をいただいたり助け合う関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に評価の意義を伝えてはいるが、浸透していない状況である。前回の評価について改善点の具体的な取り組みが職員間で共有できていない。今回の自己評価については管理者とケアマネージャーが中心に記入している。	○	自己評価についても全職員で取り組み評価の意義を理解して、振り返りサービスの質の向上に取り組む気づきの機会となるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、地域住民・民生児童委員・市役所職員・家族代表・利用者代表が参加している。グループホームのあり方や取り組み、理念や課題など話し合っている。他ホームとの交流を期待する意見が出され、近くのグループホームと利用者同士の交流会を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課へ出向いて行き困難事例などを相談をしたことにより、サービス担当者の会議が開かれ、情報を提供している。話し合いをしたことやアドバイスをケアに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている	法人の機関紙は毎月、グループホームの広報紙は2ヶ月に1回発行し、活動内容が分かるよう写真を貼付したものを家族へ送付している。個人的に気づいたことや伝えたい内容があれば書き込み送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時の話し合いで要望や意見を家族から出してもらい、買物に連れて行って欲しいと要望があればすぐに実施している。また、家族の会への積極的な参加を呼びかけ、家族代表者は運営推進会議に参加し、地域住民等へも意見を伝える機会が設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の要望を聞き、働きやすい環境を整え、職員の入れ替わりが無いよう経営努力をしている。職員が異動や退職する時は、利用者や家族に伝えダメージを少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程に採用時職員研修や経験に応じた研修を明記しているが、計画的には実施していない。	○	計画的に段階に応じた職員研修を行う事や、研修内容を全職員で共有してサービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへ・利用者と一緒に訪問して、お茶を飲んだり、レクリエーションなどを通じて交流を行って、交流により身体機能維持に努めている。今後職員同士の交流も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、利用前にホームの見学に来てもらったり、入居後は、週末外泊や家族に宿泊してもらうなど、ホームに徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを職員会議で共有しており、お互いに協働しながら、安らぎや優しさを感じられるような人間関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけをしたり、つぶやきや表情などから全般的な願いや思いを把握することに努めると共に、全職員で共有し、サービスに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、全職員で話し合いをして、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月から1年に1回、定期的な見直しを行うと共に、状況変化時には随時見直しを行っている。職員の気づきや利用者の状態変化、実施した介護などを系統的に記載する経過記録で介護計画の評価に活かしているが、家族や本人の意向の把握が十分ではない。	○	本人や家族の意向や状態確認を行い、計画に反映させることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居予定者がホームで時間を過ごしたり、病院受診時は職員が送迎するなど、柔軟に対応している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を大切にして、かかりつけ医から協力医療機関へ変更する場合もあるが、かかりつけ医の受診は、すべて職員が送迎している。月に1回はグループホームへの訪問診療をしてもらうなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りケアについて、重要事項説明書に明記しており、入居時に説明し、確認を取っている。重度化した場合、家族やかかりつけ医と話し合い、医療行為の必要のない人のみ、看取りケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声かけなど、誇りやプライバシーを損ねないよう、すべての職員が対応に配慮している。個人情報保護や守秘義務についても、マニュアルを作成し、回覧を行い確認印を取るなど、徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応し、利用者のペースに沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなで作った野菜を、利用者と一緒に、漬け物や和え物にしたり、調理や片づけも一緒に行っている。月2回の刺身や寿司の日も楽しみにしており、食事中も会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回に入浴しているが、その日の体調や希望に応じて、シャワー浴にしたり、入浴時間を変えたり、温度も個々の希望に応じて調節している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や得意分野を活かした役割、楽しみごとの支援をしているが、生活歴の把握が十分でないため、職員主導の楽しみごとや役割になっているものがある。	○	一人ひとりの生活歴を把握し、経験や習慣、その人の有する能力などをふまえて、利用者と話し合いながら役割や楽しみごとを支援していくことが期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望や天候に応じて散歩などを行っているが、車いす利用者や希望しない人は、ほとんど外出しておらず、外出する人が偏っている。	○	2階の車いす利用者や、特に希望しない人も、1日1回は、戸外の空気に触れることが大切であるので、本人に合わせた移動に配慮しながら、個別の外出支援をしていくことが期待される。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年利用者が行方不明になったことから、ユニットの入り口に施錠するようになったが、現在は午後だけ施錠している。	○	鍵をかける弊害を全職員で考え、鍵をかけないケアに取り組んでいくことが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年1回施設内での避難訓練を実施し、年1回は地域住民と一緒に消防署の避難訓練を実施すると共に、災害時の救助活動についても協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や飲水はチェック表にて把握しており、栄養士に疾患や体調に合わせた減塩食などのアドバイスを受け、個々に合わせた食事支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ススキや月見団子のタペストリーを飾ったり、卓上の花や鉢物に季節を感じ、ソファや家具の配置も居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や写真などが持ち込まれている。また、家族の協力が得られない利用者には、鉢植えや手作りのものを飾るなど、本人の好みや話し合いによって、居室で居心地良く過ごせる工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム まごの手 ①
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市朝地町下野442番地2
記入者名 (管理者)	森 景三
記入日	平成 19 年 10 月 1 日

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにしよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム まごの手 ②
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市朝地町下野442番地2
記入者名 (管理者)	足立 成己
記入日	平成 19 年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活できるように、理念と基本方針をうちだしている。さりげない支援で、利用者それぞれのかゆいところに手が届くようなサービスを目指している。	○	継続する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼の際に、職員が輪番制で理念を朗読している。その後に朗読者は、今日の介護に対する姿勢や気持ちを一言述べてもらっている。開設時より毎日行っている。	○	毎月介護に対する目標をスタッフ会議の中で決めているが、徹底できるようにスタッフルームに掲示するようにした。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、面会時や便りを通じて、繰り返し伝えている。また行事への参加等、事業所の実践を通じた中で、地域の方々と交流をもち説明をしている。	○	継続する。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時や散歩の際には、隣家の方と挨拶をする等機会はある。また併設のデイサービス利用者で入居者と知り合いの方は、ホームへ面会に来て下さる機会がある。	○	近隣所の方が、もう少しホームに立ち寄れる雰囲気や機会を設けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の訪問や老人会の慰問、獅子舞訪問等は定例的に行われている。また花火大会等夏祭りや運動会には、出かけている。しかしながら、まだまだ街に同化しているとまでは、至っていない。	○	更に地域活動への参加機会を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の事業所共同で、介護教室を開催した。その中で管理者は、認知症対応の一つとして専門医受診のすすめというテーマで話しを行い、安心して暮らせる街作りに協力している。	○	継続する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。また評価内容について日頃より取り組めるように、職員それぞれが係りを担当し、機能するようにしている。	○	継続する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告と協議委員の方から質問や意見等を頂き、そのことを検討及び改善するようにしている。また前回の会議録は協議委員に配布している。	○	継続する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課の担当者には、運営上の相談や外部評価のこと等を機会があるごとに相談し、アドバイスを受けている。また入居事例から地域密着型サービスとしての保険者側ガイドラインを定めてもらった例もある。	○	継続する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、弁護士の講演等機会があれば研修に参加している。また対応困難と思われる場合には、地域包括支援センターの担当者に相談するようにしている。管理者の対応が主で、職員全員による対応までとは至っておらず万全ではない。	○	成年後見人制度について学習会を重ねている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例自己学習や勉強会で、高齢者虐待防止法の再認識の機会を設け、理解浸透や遵守にむけて取り組みを行っている。	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方には、ポイントを絞りながら説明している。特に料金や事故のリスクや病院受診、ターミナル、また洗濯の事等は、質問される機会が多い項目であり、質問がなくとも必ず触れている。	○ 継続する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情、態度等からその思いを察する努力とそれに応える努力をし、利用者本位の運営を念頭に置いている。また利用者の気持ちや不安等は、細かなことでも職員全体が共有できる情報となるようにしている。	○ 継続する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず声をかけ、暮らしぶりや今後の展望等を報告して質問を受ける時間をもっている。体調不良時において、特に状態悪化の恐れがある場合にはすぐに電話報告している。また定期的に写真や便りも送付している。	○ 毎月のお便りの中で、職員の就職や退職も伝えるようにした。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時や手紙の中で、意見抽出の機会を設け、何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。また面会者の些細な言葉に耳を傾け、その言葉を職員全員に伝え、自分達の介護の姿勢を見つめる機会等にしている。	○ 継続する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・勉強会を月に1回開催し、職員の月目標の設定や意見を聞くようにしている。また職員全員各係りを担当し、それぞれの活動を通じ、介護の質の向上に努めている。	○ 継続する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、利用者や職員の状況に迅速に対応できるように通常のシフトにいけないことで柔軟な体制ができている。夜勤者は前々日もしくは前日には当該ユニットの把握ができるように配置し、入居者とコミュニケーションがとれるようにしている。	○ 継続する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族との信頼関係を築く上で、きめ細やかな支援と職員の間人性が重要であると考えている。そのため離職による職員交代時には細心の注意をはらっている。	○ 継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1研修を目標に、勤務時間内研修に参加するようにすすめている。また研修参加後は、復命書の提出と勉強会での報告を必ず実施している。	○ 施設内で新人研修・現任研修を開始した。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、町内の他グループホームや居宅介護支援事業者と2月に1回連絡会を開催し、情報交換や認知症に対する意見交換を実施している。	○ 継続する。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の開催や職員間の人間関係について気を配り、話しを聞く時間をもうけている。また業務のことで人間関係がこじれる事が多いので、業務で問題があれば早期に公の場に提案し、改善策を構じる様に、職員に話しをして実践している。	○ 職員からの提案で、入居者に支障のないように、交替で休憩時間をもつようにした。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者と管理者が同一な為、トップダウンにならないように運営上留意している。また職員自身がやりがいと責任をもてるように、個人ごとに係りを担当して前向きに働けるようにしている。	○ 継続する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用開始前には、必ず管理者が利用者と面談を行い、心身の状態把握と本人の要望等を聞く機会を設けている。また利用者によっては職員が食事の様子等の場面に立会う時間を設ける工夫をしている。自宅からの入居のケースでは、家族と相談し入居前に併設デイサービスを利用して頂き、顔なじみの関係をつくることもしている。	○ 継続する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が入居にふみきった要因や状況は必ずお聞きしている。また入居時にご家族は、本人に対して負い目を感じていることもあるので、心情に配慮し話しをしている。	○ 継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人・家族それぞれの思いや家族状況等を話して頂き、支援の提案や家族の持つ悩み等が表出できるようにしている。また必要なサービスやその具体的方法等も提案するようにしている。	○	継続する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけサービス利用前に本人に施設見学に来て頂くようにして納得の上での入居に努めている。また家族の方には必ず施設見学には来て頂いている。入居後は家族と距離をとったり、週末外泊をしたり、ケースに応じた対応をしながら、自宅からホームへの生活にスムーズに移行できるように努めている。	○	継続する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員共にやすらぎやさしさを感じられるような場所であるよう、支援する側支援される側という意識をもたずに、人間関係作りを行っている。	○	継続する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居というお互いの人生の新しい始まりの中で、家族に信頼されるように、利用者と家族の間で互いの気持ちに寄り添い、支援している。	○	継続する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にはご本人とご家族の思いのずれや時間の距離が縮まるように、話しをするように心がけている。	○	継続する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居によりこれまでの生活環境が変わることが多いので、本人の要望や人間関係をふまえた上で、これまでの生活の延長線上となるように外出等を含め支援している。	○	継続する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やお茶の時間は職員も一緒に多くの会話をもつようにしたり、利用者同士の関係が円滑となるように職員が調整役となっている。グループはできるものの、自然な入居者同士の調和のある関係はできている。	○	継続する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方や他の事業所に転居された方には必ず面会に行っている。	○	継続する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の要望や意向等の把握に努めている。また把握後、どのような方法で実現できるのかを、職員で話し合うようにしている。その中で家族の力が必要なこともあるので、その旨を説明し、協力して頂いている。	○	継続する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の中だけでは全てを把握しづらいので、本人との会話の中や家族等の面会時に少しずつ情報収集に努めている。また本人と自宅訪問をする機会を設け、生活歴等を把握している。	○	継続する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活リズム及びICFの視点である体調、活動、参加等総体的に全体像を把握するように努めている。また本人の小さな情報を見逃さないようにしている。	○	ご本人の要望や体調にもよるが、1日の中で午後の過ごし方について検討中。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、反映されるように、そしてICFの考えをもとに提案するようにしている。また利用者主体の暮らしを支える計画となるようにかつ介護が反映するような介護計画としている。また日々細かい情報やその支援を職員で立案、評価していくシステムに取り組んで効果は少しずつみられている。	○	現システムの構築をすすめていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の支援の中で必要な情報を抽出し、上記のシステムの取り組みにより、介護過程を展開している。38も参照。	○	更にご本人やご家族の意見等を反映させた計画になるように情報の収集に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	平成19年7月より、フォーカスチャージングによる記録を実施している。その中で職員の気づきや利用者の状態変化、実施した介護について記録している。また継続して支援しなければならない事や情報は申し送りファイルの中で評価するまで展開している。その情報を介護計画の評価に活かしている。就業前には申し送りファイルの確認を義務づけている。	○	継続する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の柔軟な支援は常に念頭に置いている。また3年目を迎えるにあたりグループホームの多機能を今後活かせるように、デイやショートステイを現在検討中である。	○	継続する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	花火大会等行事の際には、駐車場の件等含め行政や警察の方に相談協力の上参加し、地域との接点や同化を図っている。	○	継続する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	散髪は本人の体調によっては、近隣の理美容院の訪問をお願いし支援している。また地域性から購入車が週2回来所し、ちょっとした物が購入できる機会を設けている。	○	継続する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後後見人制度が必要と思われる利用者には、地域包括センターの担当者に相談に応じてもらっている。	○	継続する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を主体に医療体制をとっている。かかりつけ医から変更する場合は、本人や家族の承諾を得て、紹介状を頂いている。受診は基本的に職員のみ同行としており、家族同席が必要な場合には協力して頂いている。また本人が希望される協力機関外の眼科等も、近隣であれば全て受診している。	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	継続する。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	継続する。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	継続する。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	継続する。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	継続する。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>日々の関わりの中での排泄誘導や排便確認等、羞恥心に配慮するように職員全員で話し合いを行い、さりげなく行うことを実施中。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>月に2回音楽療法を取り入れているが、その中で「利用者の意志を待つ姿勢」の大切さを学んでいる。職員も交代で反省会に出席し、先生と自己決定の視点や寄り添うことの大切さについて話し合いの時間を設けている。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>ご本人のご要望や体調にもよるが、1日の中で午後の過ごし方について検討中。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>継続する。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>継続する。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>飲酒の機会の定例化を検討中。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	継続する。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	ご本人の能力等に応じ夜間入浴を検討中。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	継続する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	継続する。
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	継続する。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	外出する人が偏らないように検討中。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら手紙や電話をしたいと申し出た時は、いつでも支援している。また電話の際は、自分の居室等プライバシーが守られる場所で、話しをして頂いている。	○	継続する。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、都合のよい時間帯に訪ねて来て頂けるようにしている、また気軽に来やすい雰囲気作りの為に、できるだけコミュニケーションをとっている。	○	継続する。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員に「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるように、勉強会を実施しており、認識が高められるように取り組んでいる。	○	継続する。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	平成18年7月までは鍵をかけずにいたが、同月入居者が早朝いなくなり、警察や地元消防団と共に捜索し11時間後に発見できた。幸い生命に異常をきたさなかった。それ以降ユニット入口に施錠するようにして現在に至る。この事は入居者及び家族、面会に来られた方には必ず説明をしている。	○	施錠管理に関しては検討中。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守りながら、直接介護や間接介護にあたっている。常に利用者を視野にいれるように心がけている。夜間は居室ドアセンサーをつける、また時間毎に安全の確認をする等安全に対する支援は強化している。	○	継続する。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個人が持っている物等は、状況に応じ個人管理にしている。また薬等は法令に従い、施錠管理している。	○	継続する。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット体験を記録に残し、その後同じような事態が発生しないように、カンファレンスしている。誤薬しない為の与薬方法や誤嚥の危険性が高い利用者の状況に応じ、食形態や摂取支援等柔軟に対応している。但し終末期には認知能力や呼吸機能の低下から、誤嚥等の恐れが高くなることを、必ず家族に説明をしている。	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	消防署の救急蘇生の学習会を以前開催したが、今後定例化していく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	火災時に2階勝手口からも、非難できるできるように、対策を構築中。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	継続する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	継続する。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	専門知識が高まるように勉強会をしていく。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	継続する。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	継続する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の栄養士に疾患や体調とあわせ、減塩食等のアドバイスを受けている。また1日の食事量をチェックし、継続した摂取量の把握に努めている。また排尿量や排尿パターンから水分量を検討している。特にお茶の飲用を好まない方には、味のついたものやトロメリンで食べて水分量を増やす等の工夫をしている。	○	検食簿や食事ノートで食事内容や栄養について検討中。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染源とならないように、使用済み紙パンツ等はトイレ内のゴミ箱に放置しないようにしている。感染予防として手洗いや嗽い、ペーパータオル使用の徹底を利用者職員共に実施している。インフルエンザ予防接種は利用者職員共に、実施している。ノロウイルス発生時対策としては、完全対応できる業者と提携しており、情報交換等もおこなっている。	○	継続する。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所水回りの清潔・衛生を保つように、職員間で夜間消毒の取り決めがある。また冷蔵庫も点検、掃除することの職員取り決めがある。	○	継続する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関軒先にベンチや植木を置く等して、明るい雰囲気作りに努めている。また季節感ができるようにプランターによる花を施設前に置いている。	○	継続する。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごはんの炊ける匂いや茶碗を洗う音、季節ごとの花や木々等の装飾等、五感や季節感を意図的に盛り込んでいる。	○	継続する。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みコーナーとソファをリビングに作っており、入居者はそこで寝そべったりして自由にすごされている。	○	テレビを見る場所と食事を食べる場所を別けたいが、利用者の声は今のままがよいということであった。もう少し人肌を感じられる環境について検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	継続する。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	継続する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	身体能力の小さな変化を見逃さない総体的な観察力を身につけられるよう、申し送り時に意図的に情報聴取を職員に実施している。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	継続する。
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	ベランダの有効活用で生活にアクセントをつけていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、職員は介護する上であきらめない姿勢とさりげない支援を常とする。
- 2、ご利用者や職員共にやさしさややすらぎを感じる場所となるよう人間関係作りをすすめている。
- 3、御利用者には可能な限り歩いて頂く。
- 4、詳細な情報の共有化と支援結果の明確化に取り組んでいる。